

令和3年度卒業式

象頭の山を吹く風はまだ冬の厳しさを残しながらも、徐々に春の躍動を感じさせる今日の佳き日に、香川県立琴平高等学校 第73回卒業証書授与式を挙行できますことをたいへん光栄に存じます。公私ともどもご多用の中、ご出席をいただきました皆様方には、厚くお礼申し上げます。

本校普通科の課程を終え、ただ今卒業証書を授与いたしました178名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、入学以来、一緒に歩いてこられたご家族の方々、今日の日を迎えて大きな喜びを感じておられることと思います。心よりお祝い申し上げます。

皆さんは平成31年4月、平成の最後の入学生として琴平高校に、夢と希望に胸を膨らませて、本校の門をくぐりました。以来、学習や部活動、学校行事、そしてボランティア活動に全力で取り組み、充実した高校生活を過ごしていました。しかし、1年生の2月に突如、新型コロナウイルスの蔓延により臨時休校となりました。一時的に解除されましたが、この休校は5月まで続くこととなりました。その後も新型コロナウイルスは変異を繰り返し、3年生の夏休みは延長され、現在も香川県は蔓延防止等特別措置を適応されています。高校生活は約千日です。そのうちの百日以上が奪われました。また、高校生に欠かせない学校行事、部活動も制限、中止され、私たちはコロナ禍で言葉では言い尽くせないくらい多くのものを失い、今も失い続けています。しかし逆にコロナ禍であったからこそ、学んだこと、得たものも多いのではないのでしょうか。最初はどのように新型コロナウイルスに対応してよいのかわからず、2年時には琴高祭などの学校行事、県総体など部活動の場が中止となりました。しかし、3年時には、感染予防を最優先としながらも、琴高全員でアイデアを出し、工夫をこらして、学校行事を形を変えながらではありますがほぼ行うことができました。また、県総体も無観客などの工夫で実施できました。皆さんの卒業を祝した琴高新聞のアンケートに琴高の良いところとして「コロナ禍でも行事を工夫して行うところ」とありました。

皆さんの多くは、新型コロナウイルスに翻弄された高校時代を過ごしてきたと感じているかもしれません。しかし、皆さんは図らずもこれまでの琴高生には無い学びを体験することになりました。新型コロナウイルス感染予防のために、琴平高校でも、国や県でも様々な組織で意思決定がされています。意思決定をするときには、多くの選択肢の中から論理的に比較検討をして一つの正しいであろう結論を導き出し、そして、情報、データの少ない中でその結論を実行していくことです。皆さんの立場に置き換えると、「してはいけないことをしない」、「しなければならないことをする」、「したいことをする」という琴高の行動三原則を、普段の生活でも、緊急事態の時でも、今自分がとらなければならない正しい行動を導き出し、そしてアクションに移していけるということです。この論理的に考え、正解を導き出し、行動できるために最も必要なことは何でしょうか。私は「凡事徹底」だと思います。普段から「当たり前のことを当たり前徹底的に行う」ことです。私はこれまでにいろいろな場面で「凡事徹底」という言葉を話してきました。

皆さんが中学校三年生の時にも高校説明会でお話ししましたがあえてもう一度伝えておきます。「琴平高校は指導が厳しいです。学習指導においても、生徒指導においても決して逃がさず徹底的に指導します。何故なら琴高は社会に出てから必要な人間、地元を支えていく人材を育てます。それはどのような人でしょうか。仕事場で毎朝大きな声で『おはようございます』と挨拶のできる人、上司が『これ誰かやってくれないか』と言われたときに率先して『私がやります』といえる人だと思います。そのような生徒に琴高は育てます。琴高の教員が自信をもって教育を行い、胸を張って卒業させていきます。」と。このような琴平高校で学んだ皆さんは、今後の厳しい社会、ポストコロナの新しい社会を担っていくことができるはずです。さあ、自分に自信をもって夢をかなえるために旅立ちの一步を踏み出しましょう。

最後に、本校の教育活動にご理解ご支援をいただきました、保護者の皆様方、また地元の皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、卒業生の皆さんの末長いご健勝とご多幸を祈念し、式辞といたします。

令和4年3月1日

香川県立琴平高等学校
校長 志賀 紀之